

# 政務活動報告書

報告者 辻 浩 一  
活動日時 平成 27 年 2 月 2 日～4 日  
活動先 山形県鶴岡市温海庁舎・酒田市山居町山居倉庫・酒田市日吉町相馬楼  
国会衆議院会館・東京ドームテプウエーフエスティバル  
活動内容 あつみ温泉のまちづくりについて  
参加者 辻 浩一、田中政司、大島恒典、川内聖二

## 活動理由

現在、温泉観光地はバブル崩壊後のデフレ経済で旅行形態などの変化により、観光客数が年々減少し宿泊施設や商店街の店舗数が激減している状況である。今回、陰りが見え始めた温泉街の復活へ、鶴岡市あつみ温泉が取り組んだ温泉地区再生への取り組みの視察を行った。

## あつみ温泉のまちづくりについて ～歩いて楽しい温泉街を目指して

平成 27 年 2 月 2 日（第 1 日目） 14：30～17：00

開 会	観光商工主査	伊藤 隆 氏
来賓挨拶	温海庁舎市長	鈴木 金右エ門 氏
視察対応	産業化主幹	佐藤 光治 氏
	建設事務室長補佐	剣持 一善 氏
	議会事務局専門員	桜井 寿美 氏

## 「位置関係」

人口約 14 万人の鶴岡市は、山形県の南西に位置し、平成 10 年に 1 市 4 町 1 村合併し面積約 1,300 km<sup>2</sup> 東北一の広さを有し、この鶴岡市の地域の一つが温海地区で人口が、約 9,600 人の旧温海町である。平成 2 年にピーク時は、約 35 万人で平成 7 年には、「にっぽんの温泉 100 選」で第 4 位になったあつみ温泉だが、バブル経済等の衰退等で観光客数は年々減少し、危機感を抱き始めた。

## 「温泉客の減少と一つの転機」

平成 12 年に当時、山形県の観光アドバイザーだった東京大学教授の堀 繁氏を講師に招き、「湯のまち景観整備講演会」を開催した。そこで、あつみ温泉は魅力がないと厳しい指摘をされ、あつみ温泉街の衰退は、街の魅力をつくってこなかったことが最大の原因と「あつみ温泉魅力づくり推進委員会」を組織し、「歩いて楽しい温泉街」を目標とし観光団体や行政とともに街づくりをおこなった。

## 「まちづくりの実践」

まちづくりの実践とし堀教授からは、ソフト・ハード面の指導を受け、まずはハード面の整備に取り組む、誰もが歩いてみたくなるような道、休んで楽しい滞留拠点、見て楽しい店をつくる事を目標とした。

## 「湯のまちのリフレッシュ事業」

平成 12 年から基本構想、平成 14 年に湯のまちのリフレッシュ事業とし工事を行い、基本コンセプトに温泉情緒の演出・ホスピタリティ表現(人優先のみちづくり)するようにした。事業概要は、歩道の段差の解消・道路中央部に足湯、ベンチ、植栽の設置・橋の欄干は透過性に配慮する工事である。昭和 26 年 4 月に旧温海町時代に大火があり区画整理が行われ、新しい道路は幅員が 15m もありその道路の真ん中に足湯を設置するなど、他には無い大胆な構想を打ち出したりしている。実施計画の際の問題点として、公安委員会より足湯の周りに防護策の設置の指示がだされたが、その点でもクリアした。

## 「温海温泉活性化施設整備事業」

温海温泉活性化施設整備事業とし廃止となった民間保養所をリニューアルし街歩きの拠点にした。施設の目的として、街の情報発信地とし訪れた人に楽しめる場所を提供し、その様子を通り全体ににじみ出させ賑わいを創出するようにしている。施設には、地元の名産品の販売や足湯カフェを設けている。この施設(購入改装費含め 7,000 万円)は最終的に、民間のみちづくりチームに無償で行政より譲り渡した。よって制約に縛られず商品の販売等施設をフルに活かし運営している。

## 「やすらぎの川整備事業」

県の事業で、やすらぎの川整備事業とし護岸整備に位置づけ 6 箇所の施設の整備工事を施工し各施設には、次のような愛称をつけて観光客に利用していただき、街のイベントにも利用されている。①「ざっこ見の腰掛け」ベンチ ②「かじかの下り口」かじか川への昇降階段 ③「もっけい湯」足湯 ④「湯涼みの腰掛け」ベンチ ⑤「竿かけのテラス」昇降階段かねてのベンチ ⑥「映し見の腰掛け」ベンチ、施設のほとんどは、街歩きが基本なので休憩所として利用できるように造ってある。

## 「くらしのみちゾーン整備事業」

道路改良は、くらしのみちゾーン整備事業で平成 15 年に国道交通省の歩行者、自転車の優先施策に取り組む事業に応募し全国 42 地区の 1 つとして登録してある。スーパーモデル地区の応募もあり平成 17 年 3 月に指定を受けた。それまで要望していた無電柱化の案も相手にされてなかったが、スーパーモデル地区に指定を受け、電線管理者の東北電力と NTT と協議し合意するまで 1 年掛かりで国と県の補助を受け電線管理者に施工していただいた。もう 1 つは、今まで対面通行の道路の一方通行化である。これに関しては、地元の旅館等より反対の声があがったが、このままでは生き残れない、ということで理解をいただき整備を行った。

## 「整備内容」

整備内容としては、歩行者優先の歩車道を整備し一方通行の区間は車両がスピードを出さぬように河川沿いの休憩施設等の構造物を道路側に張り出し運転手にプレッシャーを与えた。道路沿いには、17 箇所の形が違う休憩施設を整備し、県が整備した休憩施設が 6 箇所とし歩いて寛げる歩車道を整備した。他には、川と道の一体化するため河川沿いの桜が多すぎて景観を阻害しているので桜の間引きをし、新しくしだれ桜を植樹した。また、河川護岸に当初あった道路の防護策を撤去するため外の護岸に小段を設けることで防護策を撤去する整備がなされた。以上のような整備により休日を中心ではあるが歩く観光客の方が多くなった。

## 「民間、地元住民の変化」

公共事業でハード整備の影響で地元住民が変わった。新しく整備した道路の清掃や商工会中心で、

地元の方々が道路を通行止めにしてイベントをたくさん取り組むようになった。

また、既存の商店を増築し出店を増やしたり空き店舗を再生し、土産屋を出店したり人力車を走らせ集客に取り組んだ。最後に、まだまだ見て楽しい店を造ることは道半ばであるとの認識である。

### (感想)

現在の制度の中で様々な規制があり、思うような整備が出来ない中で、生き残りをかけた危機感とやる気により、様々な整備がなされていた。特に、道路中央の足湯や道路と河川沿いの防護柵撤去については公安委員会との交渉の末に実現した整備は、危機感の本気度を感じる。また、無電柱は国、県を巻き込んだ行政の手腕に感心した。当市においても、街歩きや無電柱化などの景観整備を含めた商店街活性化・誘客は直面する課題であり、整備に関する規制などやる気を持って粘り強い交渉が必要だと思う。

## 視察内容

### 山居倉庫 ～自然を利用した低温管理倉庫～

平成 27 年 2 月 3 日 (第 2 日目) 9 : 3 0 ~ 1 0 : 0 0

明治 26 年に酒田米穀取引所の倉庫とし旧庄内藩酒井家により建造され、明治 30 年まで 14 棟建てられ酒田家が管理、運営を行った。倉庫の造りは土蔵造りで建物の基礎下には軟弱地盤対策とし杭木を打込み地盤対策を行っている。これにより明治 27 年の庄内地震(マグニチュード 7.0)耐え損害は僅かなものであった。

また、建物は屋根を二重構造とし断熱効果を考慮し湿気対策とし土間にはがりを混ぜた土で固められ土間全体に温度と湿度を一定に保つように塩を敷き均してある。外工は暴風対策とし冬季の厳しい季節風から倉庫守るため、櫓を配置してある。

しかし、昭和 14 年に取引所は、米穀配給統制法により廃止されたがその後、全国農業組合連合会庄内本部とし現在まで運用されている。

### (感想)

当日は休館日で隅々まで見学できなかったが、外観がしっかりと保全しており、防風林との景観は後世までのすべき遺産であると感じた。

## 舞娘茶屋雛蔵書廊「相馬楼」・竹久夢二美術館

平成27年2月3日 11:00～12:00

相馬楼は江戸時代より開業していたが、明治27年の庄内の大火で焼失した直後、残った土蔵を取り囲んで建てられた。平成8年11月国の登録文化財建造物に指定された。現在も食事や舞娘の踊りを楽しむ場所として営業している。また、ひな人形の展示や竹久夢二と縁があることから夢二の孫の好意により絵画・写真・文書などが展示してある。

### (感想)

歴史を感じるお茶屋であり、部屋の作りは当時の繁栄を偲ばせる豪勢なもので、酒田市の政治・経済の中心であったであろうことを想像させる。現在の運営は商工会がおこなっており、また芸者置屋が減少する中で、花街文化を維持するために、験板としての機能もあり職員として雇用し舞妓の養成もしている。芸者文化がある当市の今後の指針になるのではないかと思った。また、竹久夢二美術館は、静かなたたずまいの中本物を鑑賞できる場所であり観光施設としては集客に目玉が増え、夢二と縁があったことは幸運なことだと思った。

## 東京ドームテーブルフェア—フェスティバル

平成27年2月4日 11:00～12:00

テーブルフェアのイベントで、喫茶うれしのかとして嬉野市内及び近隣市町の陶磁器展示販売とお茶の販売がなされていたので視察をおこなった。

### (感想)

フェア出展に当たっては相当な費用が必要であり、補助金をとの話も聞く。努力されていることは認識するがしかしながら市内の出店者は個人であり、組合など団体でないと補助金は厳しいのではないかと思う。したがって、業界としての販売に対する認識の共有が必要である。